

「よい失敗」と「悪い失敗」

各学級の代表者に修了証を渡しました。修了証の「しゅう」という字は「終わる」という字ではありません。修学旅行の「修」です。この字は「おさめる」と読み、「身に付ける」という意味があります。ですから修了式とは、この1年間を通じて学習面でも生活面でも様々なことを身に付け、「私たちの成長した姿を見てください」という式なのだと考えています。皆さんはこの1年間で成長することができたでしょうか。皆さんの学校生活をみていて成長しているなど感じる場面があります。2年生は清掃です。「時場礼」の「黙隅清掃」を一番実践しているのは2年生だと思います。1年生は、机周りの整理整頓です。移動教室で誰もいない教室をのぞくと、机の上に荷物もなく、前後左右がきれいに整っています。そして、どちらの学年にも共通しているのは授業始め等の「爽思四秒礼」。これも「時場礼」の1つですね。気持ちのよい挨拶は素直で明るい皆さんの印象そのものです。

さて、令和4年度修了式にあたり、畑村洋太郎さんが書いた「やらかした時にどうするか」という文章の中から「よい失敗」と「悪い失敗」について具体的に説明している内容を取り上げ、紹介したいと思います。ちなみにこれは、熊谷市が3年生対象に実施した今年度の「中三テスト（国語）」の説明的な文章の資料文であり、皆さんも、国語の時間に問題を解くことに取り組んでいます。ですから、内容を覚えている人も多いでしょう。

畑村さんによれば、「よい失敗」とは「未知なるものに遭遇して起きた失敗」のことです。中学生時代は、初めてのことや自信がないことにも果敢に挑戦し、自分の世界をどんどん広げていくことができます。当然失敗もあるでしょう。しかし、失敗なしに人間は成長しません。小さな失敗体験の積み重ねを通して上手に軌道修正が行われ、大きな失敗を回避することができますし、それどころか大きな成功をつかむこともできるようになります。では、「悪い失敗」とはどのような失敗のことなのでしょうか。畑村さんは、それを「単なる不注意や判断ミスで起こり、そこからは何も学ぶことができず、何度も繰り返されてしまうような失敗」と定義しています。単純な遅刻や忘れ物などが「悪い失敗」に該当するのかもしれませんが。悪い失敗を積み重ねると悪い習慣が身についてしまい、悪循環が起こってしまいます。来年度、進級する皆さんには、これまで以上に、何事に対しても挑戦する気持ちをもってもらいたいと思っています。そうすることで、皆さんの成長に欠かすことができない「よい失敗」を積み重ねることができるのです。

今月17日に国民栄誉賞の表彰式がありました。受賞したのは車椅子テニスで幾多の偉業を成し遂げ、1月に現役を引退した国枝慎吾さんです。自国開催の東京パラリンピックで日本選手団の主将を務め、1セットも失わない強さで金メダルに輝いた姿は忘れられません。国枝さんが一番好きな言葉は「挑戦」だそうです。インタビューに対し「好きな言葉は『挑戦』に尽きます。常にチャレンジを意識し、決断、行動してきたし、これからもしていきます」と答えていました。

皆さんのさらなる成長に期待し、令和4年度修了式の式辞とします。